

じょうこうじ 掟光寺だより

令和5年
3月号

行事案内

●3月6日(月)
「涅槃会日蓮聖人ご降誕会」
13時30分から

●3月21日(祝・火)
「春彼岸中日会」
13時30分から

●3月26日(日)
「千部会・施餓鬼供養」
9時30分から



ろくはらみつ 六波羅蜜(布施)

【最上の施しとは…】

こないだ正月が来たと思ったらもうお彼岸の季節ですね。今回は仏道修行として重要な六波羅蜜の1つ、そして、そしてその最初に出てくる「布施」をご紹介します。

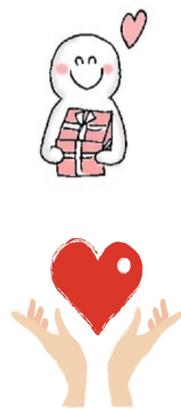
この布施とはお寺さんに法事等の時にお金を包むことではありません。日常において実践すべき徳の一つであり、他者に対して慈悲の心を起こし何かを施すことは大乘仏教においてもっとも重要なことです。

布施について、お釈迦さまもお経の中で、『乞う者を見て与えるのは施しであるが、最上の施しとはいえない。心を開いて、自ら進んで他人に施すのも最上の施しではない。常に施すのが最上の施しである。』

施した後で悔いたり、施して誇りがましく思うのは、最上の施しではない。施して喜び、施した自分と、施しを受けた人と、施した物と、この三つをもとに忘れるのが最上の施しである。

正しい施しとは、その報いを願わず、清らかな慈悲の心をもって他人も自分もともにきとりに入るように願うものでなければならぬ。』(大般涅槃経)

自ら進んで常に施すことが最上の施しであり、布施を行っても、布施をした自分・布施を受けた相手・布施された物(三輪清浄)を忘れることがいい布施と述べられています。



【金品に頼らない布施】

仏教における布施は金品を差し上げることだけではありません。

- 身施 (労働奉仕)
- 心施 (思いやり)
- 眼施 (優しい眼差し)
- 和顔施 (優しい表情)
- 言施 (心のこもった言葉遣い)
- 床座施 (座席の提供)
- 房舎施 (自宅の宿泊場所としての提供)

これらは「無財の七施」と呼ばれるものであり、中には特殊なものもありますが、誰でもいつでも簡単にできる布施が並んでいます。見れば簡単なことですが、これらのどれか一つでも自ら進んで常に施すと考えるとなかなか難しいと思うのではないのでしょうか。

【布施の種類】

六波羅蜜の布施には大きく分けて3つあると言われます。

- 財施 (人に金品、財物等を与えること)
- 法施 (教えや知識を他の人々と分かち合うこと)
- 無畏施 (恐れぬ心で人にたすけをすること)

財施と法施は分かりやすいと思いますが、無畏施だけ特殊です。恐れぬ心を与えるとは、相手の不安や恐れを取り除いてあげることです。恐れぬ心で他人に与えることまではなかなか難しいかもしれませんが、悩み苦しんでいる人に対して、そっと側に寄り添って話を聞いてあげることができそうです。

布施をする為には「自ら相手の心を察する」ことが必要です。財施も法施も無財の七施なども人の心を察した上で初めて施しができますから、そういった意味では、常に相手の心に寄り添い続ける「無畏施」が布施の中でもっとも最上の施しといえるのではないのでしょうか。

